

ずいそう

職業訓練と地雷除去を 求める発展途上国の支援と平和構築



中 込 璋

私は国際協力機構（JICA）には海外業務 38 年（職業訓練センター 30 年，地雷除去機械化 8 年）で，海外 128 カ国訪問してきました。その経験から日本政府の顔の見える援助として 2 年前より力を注いでいるのが平和構築支援の職業訓練センターにより難民も退役軍人も手に職をつけ企業や NGO に就職させることに取組んできました。また，地雷探査と除去の機械化により，安全で早い除去作業機械化に技術者の一人として力を注いでおり JICA 登録番号 10167 として現在，活動しています。

2004 年はアフガニスタンに 1 月と 8 月，ラオスに 3 月，カンボジアには 6 月の計 4 回，外務省と JICA に同行して調査を重ね活動報告書を提出，前途の平和構築のための支援推進の作業を微力ながらしています。

私の本業はメカニカルエンジニアです。メーカーに所属時に職業訓練センター建設と教育を 30 年実務で働き，最近 8 年は同時に地雷除去機械により罪のない人々を不幸より助けようと意気込み，仕事の合間には地域社会と中学校を回り地雷被害の悲惨な状況を講演し，寄付された学用品や手紙などを現地の手足の無い被害者の病院を回り，一人一人に届けてきました。仕事では地雷被害国である中米ニカラグア，アフリカのモザンビーク，中東のアフガニスタン，東南アジアのカンボジア，ベトナム，ラオスの地雷現場を夢中になって回りました。アフガニスタンには 6 回，カンボジアに 16 回出張し，私の第二の故郷として身を投じて支援活動をしてきました。そうは言うものの仕事で悩みもつきないものがあります。

日本がどんなに努力しても 1997 年加盟したオタワ条約の地雷廃絶の願いを無視して 3 大武器輸出国であるアメリカ，ロシア，中国は加盟せず地雷も武器も輸出を続けていることです。地雷被害国のカンボジアなら CMAC，ラオスは UXOLAO，アフガニスタンは国連 MACA が国内，海外の NGO を配下において除去にあたっては死傷者を出しながら努力しています。ところが日本や EU が支援しても地雷は減少せず，紛争国で増加している状況なのです。加えてクラスター爆弾，さらに小型原爆といわれる劣化ウラン弾まで現れ大騒ぎです。劣化ウラン弾の調査で私はアフガニスタンに出張 2 回調査しました。結果は日本人が活動している中南部には在りませんでした。アメリカが認めているイラクでの投下の話がオーバに流れたようです。

地雷問題は手作業除去のまま放置すれば地雷ゼロになるのには 500 年以上かかると国連は報告しています。

私の地雷除去活動 8 年間の悲願は 500 年ではなく 30 年で手作業による地雷除去に機械化除去も加えて地雷ゼロにしようということです。そのために頑張りつつ支援活動を進めています。

地雷除去の状況は前述したとおりですが具体的に追加します。6 月にカンボジア 2004 年度の援助調査によりますとこの 2 年で平和構築支援が治安，組織，教育，地雷除去もより奥地へと進み，JICA 所長も成功例となるよう努力中であると話していました。CMAC の 6 現場とも全て調査していますがジャングルカット，探査，除去とも大幅に事故が減少しています。アフガニスタンの調査でも治安の厳しい条件下軍閥から退役軍人を出させ武器の回収も始められました。私はカブールで公共事業省の焼け残りを再建し，職業訓練センターで難民や退役軍人に手に職をつけさせるための工場建設計画と予算を提出すべく計画中です。

私の主張は平和と繁栄しか知らない日本人に貧困と紛争で地雷に苦しむ国を助けるため日本の建機で欧米の地雷除去機メーカー 22 機種を追い越して日の丸建機で除去し助けることを 5 年で実現したいことです。



図一1 2004年8月28日，国連 MACA ダンケリー所長より表彰状を受ける。表彰内容は山岳地雷現場への特殊仕様建設機械の納入，職業教育訓練，地雷除去の機械化，特殊爆弾の調査の長年の功績